

平成30年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階)

福岡県立門司学園高等学校長 印

学校運営計画(4月)			評価(3月)		
学校運営方針	併設型中高一貫教育校として、中高それぞれの教員が相互に連携し、その特性を最大限に生かす6年間を見通した教育課程を確立し、100年後に繋がる確固たる礎を築く。				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
<p>昨年度も、中高合同の研修会等を複数回開催するなど、積極的に中高連携を推進し、6年間を見据えた教育活動展開のための環境づくりに努めてきた。その中で、主体的・対話的で深い学びの実現のために行った、指導方法や授業評価方法の研修は、中高双方の教員にとって有益な交流となった。その他にも、学校の特性を生かしたカリキュラムの検討や生徒会活動の活性化、中学校や塾への広報活動の強化などが進み、成果も上がっている。しかし、学校を取り巻く環境の変化は著しく、今後も検討・改善を必要とする課題は多い。特に、大学入試改革に伴う教育環境の変化への対応、朝講習等不参加者の参加促進、西鉄バスの臨時便廃止に伴う対応、広報活動の更なる強化などは喫緊の課題であると考えている。これらの課題の一つひとつ丁寧に対応していくのと同時に、中高一貫校の特色を一層生かしながら、職員が一丸となって本校教育目標を達成すべく活発な教育活動を展開することで、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。</p>	学力向上策実践と授業改善	6年間を見通した教育課程により、進路実現を支える確かな学力を身につけさせ、主体的・対話的で深い学びを実現するため、指導方法・授業評価方法の研究・工夫・改善に努め、魅力ある分かる授業、学力を高める授業を展開する。			
	キャリア教育・進路指導の充実と進路保障	門司学プランに沿った生徒の可能性を広げるキャリア教育及び難関大学をはじめとする上級学校進学を実現する学力養成のための講座や小論文・面接指導などの表現力や英語力を備えたグローバル人材を育む進路指導を充実させ、一人ひとりの進路実現を支援する。			
	心を育てる道徳教育の充実と部活動の振興	教育活動全般において「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れ、自他を認め合い、相手の気持ちを思い遣ることができる人権感覚と自尊心・自己肯定感・人命尊重の精神を育み、全人教育を推進する。			
	心と体の健康教育の推進	日頃からの生徒の見守りにより状況把握に努め、問題を抱える生徒の早期発見・早期対応による支援体制を確立し、授業や部活動を通して心身ともに健康な生徒を育成する。			
	教育活動の一層の魅力化と広報活動の充実及び地域との連携	学校行事等の内容を更に充実させ、学校の「魅力化」とそのアピールに努めるとともに、地域や同窓会とも連携して教育活動の一層の活性化を図る。			
	高い教育効果を発揮する教員集団づくり及び人材育成	中高教職員一人ひとりが意欲的・積極的・協力的に、建設的な意見交換・提案を行い、「チーム門司学園」として、常に生徒のために本校教育活動に貢献していく組織づくりを行う。本校・本県を担う教員としての人材を育成する。			
施設・設備等の教育環境整備	生徒が安全・安心な環境の中で、快適に充実した学校生活を送り、学習活動を行うことができるよう、施設・設備等の点検・維持・充実に努める。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度主な課題
第1学年	集団生活における社会的マナー・モラルを身につけさせる。	時間厳守5分前行動を基本として、手帳に予定やメモをとる習慣をつけ、自己管理能力を養う。	C	B	<p>手帳を用いてさらに自己管理できるよう指導する必要がある。また、生徒自ら主体的に行動できるように指導したい。日常的に論しながら指導する必要がある。生徒自らのさわやかな挨拶ができていないのでお互いに声掛けをしていく必要がある。</p> <p>家庭学習の習慣が少ない生徒がいる。もっと学習に対する前向きな気持ち・姿勢を持つように工夫していきたい。</p> <p>新テストに向けて情報の収集・提供を行う。また、定期的にポートフォリオ等の説明も行い、対応できるようにする。</p>
		挨拶・話を聞く態度・言葉遣い・服装頭髪の整備等に留意させる。	B		
		社会的ルール・モラルを守り、思いやりのある言動がとれるよう指導する。	B		
	学習に対する意識を高め、基礎学力の向上を図る。	各教科で予習・復習の指導の徹底を行い、家庭学習の習慣を身に付けさせ、基礎学力の充実を図る。	B	B	
成績不振者に対しては、必要に応じて補講等を行い、基礎学力を身につけさせる。		B			
課題等をしっかりと取り組ませる。また、提出や締め切りの厳守を徹底させる。		A			
第2学年	責任と自覚を持たせる	先輩としての自覚を持たせ、学校生活において後輩の模範となれるよう指導する。	C	B	<p>挨拶の面では、まだ自分から積極的な挨拶が出来ていないので、次年度は最上級生となるので、下級生の模範となるように引き続き挨拶指導を行う。生徒会活動では積極的に参加しているため、特に次年度は体育大会という大きな行事が控えているので、その成功に向けて下級生を指導できるように育てていきたい。進路面では、生徒の進路希望に沿った校外模試の分析と共に、授業2分前着席や朝読書の徹底といった、落ち着いた学習環境を作ることで、個々の進路実現に向けてサポートしていきたい。</p>
		生徒会活動、部活動、学校行事では、学校の核となれるよう指導する。	B		
		進路目標をより具体的に設定し、しっかりと授業や定期考査に取り組ませる。	B		
	自己管理・自主性の推進	手帳に予定やメモを取る習慣をつけ、自己管理能力や情報収集能力を養わせる。	B	B	
授業開始は2分前に、その他の集団活動では5分前に自主的にその活動の準備をさせる。		B			
行事におけるクラス活動や清掃など、自主的に参加し活動できる姿勢を養わせる。		B			
第3学年	個々の進路実現を達成させる	手帳などを利用して、目標とする進路に関する情報をこまめにまとめさせる。	B	B	<p>今年度の最重要課題として、下級生(高校2年生)を次年度のリーダーとして育てるというものを挙げていたが、高校3年生に徹底し、意識させることが難しかった。最上級生が自ら手本となり、下級生を次のリーダーとして育てるといった意識がもっと高まれば、本校の活性化に間違いなくつながると思うし、学校自体がもっともっと盛り上がっていくのではないかと考える。また、生徒の進路目標・意識を高めていくため、基礎学力の定着を促すことや進路のしくみ、生徒への働きかけの部分をもっと検討していかなければならない。</p>
		日々の授業など基本的な内容の重要性を見直させ、基礎学力を確実なものとする。	B		
		予習・復習・考査の流れを完成させる。	B		
	最高学年としての自覚と行動	学校行事など常に最高学年であるという意識を持たせる。	A	B	
		下級生を次年度のリーダーとして育てることを意識させ、行動させる。	B		
高校生活最後の1年となるので、学校に対してどのようなことができるかを考えさせる。		B			

平成30年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階)

福岡県立門司学園高等学校長 印



評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
教務課	成績評価の在り方と観点別評価導入に向けての検討・推進行事の精選と実施時期の検討	生徒の実態に合った評価の在り方、新学習指導要領を見据えた評価の在り方を検討する。	B	B	評価の在り方については、「観点別評価」導入も念頭に置きながら、継続的な検討が必要である。中高一貫教育校としての特色を出すために、教務課が主体となって新しい行事を立ち上げたが、他の行事との関連や実施回数及び実施時期等の検討が必要である。ICTを活用した授業及びアクティブ・ラーニング型授業については多くの先生が積極的に取り組み、授業の活性化が図られた。出席率・出席皆勤者数は学年により差があり、課題が残った。学年との密接な連携な連携を図る必要がある。
		行事の精選と実施時期を検討することにより、充実した教育活動の実現を図る。	B		
	確かな学力(基礎学力)の定着と成績の向上 ICTを活用した授業の充実 アクティブ・ラーニング型授業の積極的導入 授業規律の徹底と出席率の向上	授業の工夫改善、家庭学習時間の確保及び課題提出の徹底を図ることで、学力の向上を目指す。	B	A	
		ICT機器を積極的に活用した授業展開を推進する。	A		
		各教科において、アクティブ・ラーニング型授業の積極的導入を図る。	A		
授業開始時の黙想・挨拶と終了時の挨拶を徹底する。出席率98%・出席皆勤者60%以上を目標とする。	B				
企画課	第2学区の中学校・塾・地域への広報活動の充実	ホームページで学校生活・部活動・進路実績を詳細に紹介する。	A	B	ホームページでは、進路情報や部活動の情報を充実させていきたい。体験入学については8月・10月の2回開催として、本校の魅力を発信する機会としたい。中学校・塾の訪問は、本校の魅力がより発信できる形で来年度以降もすすめたい。国際交流美術展は校外展示を開催できたので、来年度以降も継続して実施していきたい。
		夏の体験入学・秋の学校説明会で本校の魅力を発信する。	B		
		中学校・塾の訪問を組織的に行い、ニーズを的確に掌握する。	B		
	PTA活動の充実・併設中学校との連携	PTAの理事会・委員会の活動を定例化する。	A	A	
		国際交流美術展を校内・校外で実施し、特色ある活動を紹介する。	A		
一斉メール送信により、保護者への迅速な連絡を徹底する。	A				
生徒指導課	自己指導能力の育成	生徒が主体的に判断・行動する機会を工夫し、自己を生かしていく姿勢を養わせる。	B	B	・生徒の主体性及び社会性を伸ばすための方策として、生徒会を中心とした学校行事の充実を図る。 ・組織的な運営を行うマニュアルを作成し、教員の共通理解を図りながら、生徒を指導する。 ・中高一貫教育の強みを活かすため、中学校と協力して定期的な話し合いの場を設け情報を共有する。 ・日常的に心の教育を行うことで、生徒の自己肯定感を高める。 ・いじめの未然防止や早期発見に努める。
		生徒理解に努め、発達状況を踏まえた個別の指導や援助を組織的に行う。	B		
		自他の個性を尊重し、互いに協力し合う人間関係を構築させる。	B		
	規範意識の育成 マナーの向上(挨拶の励行)	定期的にバスの利用状況を確認し、交通機関利用のマナーを向上させる。	B	B	
		中高一貫校の強みを意識し、部活動の充実を図る。	C		
「学校いじめ防止基本方針」に基づいた未然防止の取り組みの推進及び情報共有に努める。	B				
保健課	環境整備及び美化活動 生徒職員の健康管理	15分清掃の徹底、美化週間などを設定し、環境整備を図る。	B	B	校内美化に関しては、15分清掃の更なる徹底。清掃区域割の周知や清掃用具の管理の徹底が課題である。今年度、消防署の緊急出動のため、1年生を対象とした救命・救急講習会が実施できなかった。防災・非難訓練については、非難場所の検討など見直しが必要な時期である。地震や火災以外にもさまざまな災害が懸念されており、職員への緊急時の対応の周知徹底が求められる。スクールカウンセリングの実施については概ね順調であるが、カウンセラーが高校の7限がある水曜日に来校されるため、担任がカウンセラーとの連携がとりにくいので曜日の検討を行う。その他、他学年や中学校との情報交換会も行われたが、さまざまな問題を抱える生徒が増えており、スクールカウンセラーも交えた有意義な情報交換会の回数を増やすことも必要である。
		健康診断や行事前の健康相談を実施し、事前事後の健康管理を図る。	A		
		生徒・職員の健康維持のため、環境改善策の徹底を図る。	B		
	事故・災害の防止対策 教育相談活動の推進	衛生委員会と保健委員会が連携し、環境改善策の調整を図る。	B	B	
		非難訓練や救命救急講習の実施、危機管理マニュアルの周知徹底を図る。	C		
教育相談委員会の定期的な実施やスクールカウンセラーとの連携を図る。	B				
進路指導課	系統的な進路指導の実践 新テストの研究・対策	併設中学校の進路指導課と連携しながら、6ヵ年の進路指導計画を策定し、実践する。	B	A	講習に関して次年度は、希望をとるのは学期毎になるので、要領の検討を今年度中に行う。また遅刻生徒や欠席者への対応ができるように生徒部との連携を密にする。小論文指導に関しては中学1年～高校3年までの流れを作り、サマーセミナーでも入れていく。夢を語るコンテストは、小論文対策に有効であるので、指導内容をより明確にし指導をより統一化して生徒の力を伸ばす。Eポートフォリオや、GTEGの教員用の研修を行い、校内での体制作りを行う。打ち込みを総学で年間の計画に明記して指導できるようにする。
		門司学ライブ(出前講義)を中学1年生から高校3年生を対象に行う。進路ノートの作成を検討し、ポートフォリオの研究も行う。	A		
		門司学プランの修正を検討する。特に、英語力、表現力を高めるプログラム、小論文指導の6年間計画を検討する。	B		
	難関大学合格者の育成	従来よりもより効果的な朝講習の内容を検討実施する。成績上位者への積極的な指導を推進する。	B	B	
		生徒が休日学校で勉強したり、進路指導室をより一層活用できるよう、環境を整備する。受験制度等の理解を深めることによって、生徒の受験への関心度を高め、効果的な勉強法を身に付けさせる。	B		
受験制度等の理解を深めることによって、生徒の受験への関心度を高め、効果的な勉強法を身に付けさせる。	B				
研修課	職員研修の充実	生徒による授業アンケートを実施し、授業の改善・充実を図る。	B	A	アクティブ・ラーニングやICTを取り入れた研究授業を実施できた。来年度も引き続き実施してもらえるよう働きかける。配慮を要する生徒についての情報交換は今後も継続する。多忙なところを、全ての職員から初任者研修の講師を快く引き受けてもらった。また、初任者自身も積極的に研修に取り組み、提出書類も期限を守って提出できた。学年によって「朝の読書」の生徒の取り組み状況にばらつきがあるようだ。生徒が「朝の読書」に積極的に取り組んでいけるよう、先生方に御協力をお願いする。
		全職員の協力の下、初任者研修を円滑に行う。	A		
		教科別にアクティブ・ラーニングやICTを取り入れた研究授業を実施する。	A		
		中高の連携を密にするため、中高合同の研修会を年五回以上実施する。	A		
	読書活動の活性化	学年毎に幅広く題材を選択して、進路実現のための「朝の読書」を継続する。	B	B	
中学生・高校生の両方が積極的に図書館を利用できるように図書館教育を充実し、環境を整える。		A			